タカチ動物園 タカチ園長がご結婚を報告されました 2面

みやの森通信

発達凸凹文化の創造を目指す 第46号:2026年10月01日発行 編集長:家森 謙
Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733
メール:miyanomori.ponte@gmail.com Ponteとやま facebook 検索

100歳 つれづれエッセイ vol.29

私の柔道歴



戦後、私は父と別居して実家に帰った母のところに身をよせ、
大学に進学もせず、叔父の経営する建築会社に入社した。
そんな折、旧師の勧めで柔道昇段審査会に出て、それを機会に
柔道に生きがいを見出すことができた。その折、柔道場を
経営している割烹のご主人の森田氏と出会った。教え子の
結果を見にきたそうで、顔も広いようである。彼の勧めで
その道場に顔を出すようになり、そこで大勢の人と知り合う
ようになった。道場の向かいに芸者置屋があり、彼女たちが
暇なときには道場の窓から覗き込み、黄色い声で応援をし、
華やいだ雰囲気を醸し出したものである。私はクラブで技を磨き、
順当に昇段し、5段の免許をとった。（５段は書類審査）
その間、母を亡くし、父の住む湯河原に住み込んで仕事を
することもあった。その折、温泉旅館の若主人と懇意になり、柔道クラブを作る話が持ち上がり、彼
の所有する空き家を父の協力によって柔道場に改装し、湯河原柔道クラブが発足した。
父は当時町会議員をやっていたので町から補助金を出させていたのだろう。父はその点抜け目が
ない。湯河原は東京の奥座敷であるため、有名人も利用することが多く、その中には柔道関係者も
いて道場に顔を出すこともあった。そこには全日本柔道選手権優勝(戦前の全日本柔道戦士権三連覇)
を果たした木村政彦氏がいた。
ある時小田原の公会堂で市の主催の柔道競技会があり、仔細は記憶にないが、エキシビションと
して、私が彼と取り組む羽目になった。しかし、その強いことといったらまるで大きな岩と
向かいあう感じであった。彼の配慮で大恥をかくことはまぬかれたが、己の弱さを身に染みて
味わった。木村氏はその後プロレスラーに転身したが、力道山との試合で空手チョップを食らい
惨めに敗退した。上には上があるものである。私の柔道歴でもう一人記憶に残るのは三船久蔵先生
である。そのエピソードは次回にゆずろう。（つづく）

伊藤博芳(みやの森カフェのお父さん)

タカチ動物園特別編

タカチ動物園

近況



巷では爬虫類ブームというものがあり、エキゾチックアニマルが多少ペットとして市民権を得たとはいえ、ヘビを複数匹飼育している僕が結婚するのはかなりハードルが高い。
もうムリだと思っていたが、2026年6月14日に入籍した。
過去には、「飼育している生き物を手放せば付き合ってもいい。」なんて申し出もあったが、もし飼育しているのが犬猫でも同じことが言えるのか？これに同意すれば、今後ずっとマウンティングされ続けるのではないか？と思い、付き合うことなくフェードアウトした。
とはいえタカチ動物園は、当初の“テレビに出演する。”という目標を３年で達成し、いつやめてもよい状態だ。余程見目麗しく、性格が優しい女性であれば、やめるのもアリと思っていた。
婚活ではヘビを飼育していることは明かさず、カメを飼っていると話し、家で何か生き物を飼っているか、好きな生き物は何かと質問したりと苦肉の策を労した。
お相手はただの生き物が好きでは困る。生餌としてゴキブリを養殖したり、冷蔵庫にマウスを保管したりと、一般的なペットに比べかなりハードコアな所業を日常的にしている。
ところが相手の女性は日常的に動物ドキュメンタリーを観る人で、感性が割と近かった。逃がしてはなるまいと頑張った結果、結婚できた。
結婚するにあたり実家を出たが、あの生き物たちはどうなったのか？手放すのか？アパートで飼育するのか？
アパートの規約では『犬猫の飼育は禁止。鳥魚の飼育は可能』となっている。なら爬虫類、両生類の飼育はルール上可能だ。
特に大音量で鳴いたり、臭ったりしない。ケージに閉じ込めておける。万が一逃げたところで、元々その辺で捕まえた生き物なので問題にならない。
しかし数が数だ。数えたら24ケースもある。それなりに空間を占有するし、哺乳類や鳥類に比べ臭いが少ないとはいえ多少臭う。
なので、生き物は従来通り実家に置いて、週に２回定期的にメンテナンスしている。
とはいえ生き物が全くいないのは寂しいので、体長１㎝にも満たないハエトリグモを２匹アパートで飼育している。餌は２～３日に一回外灯に集まった虫を捕まえて与え、たまに奥さんがハエトリグモの捕食する様子を観察している。
長年、相手となる人には理解してもらわなくていい。ただ黙認してもらえさえすればよい。
それでも難しいと思っていたので、とても嬉しい。
なんかノロケのようで恐縮だけど、このところ大体こんな感じです。







「夏休み」もいつものフリスタ！！





夏休みのフリースタイルスクールは、いつもよりちょっとだけにぎやかです。「夏休みだからお休みします」という子もいるけれど、「夏休みだから行きます！」という子もいたり、学校がお休みの兄弟姉妹が遊びに来てくれることもあるから。
今年の夏も、暑さに負けず、たくさん遊びました。Liberoの外では水遊び。プールを出すところから子どもたちも一緒に準備します。水をかけたり、かけられたり、時にはなぜか「滝行」が始まったり（笑）。びしょ濡れになって大笑いです。
みんなで作った秘密基地も完成しました。暑い中、子どもたちも大人と一緒に作業しました。完成すれば、格好の遊び場です。
お盆前には、保護者の皆さんにも協力していただいて「夏の大掃除」をしました。あらかじめ書いておいた「やることリスト」を見ながら、「これ、やってもいい？」と、自分から仕事を見つけて動き出すフリスタキッズです。兄弟姉妹も加わり、みんなでLiberoをピカピカにしました。頑張った後のお楽しみは、流しそうめん！そうめんを流したい人、食べることに集中する人、流れてくるトマトやゼリーをなんとか箸でつかもうとする人。それぞれの楽しみ方で、気づけばみんなお腹いっぱいです。



遊ぶ、食べる、作る、誰かと一緒に笑う。「今日は何する？」から始まるフリスタの一日。大人が全部決めなくても、子どもたちは遊びや暮らしの中から「やりたい」を見つけていきます。Ponteとやまフリースタイルスクールには特別なプログラムはありませんが、自分で考えたり、人と関わったり、「やってみよう」と動き出したりする瞬間がたくさんあります。夏休みが終わっても、フリスタの日々は変わりません。「今日は何する？」から始まる毎日をこれからも大切にしていきたいと思います。
※見学は随時受け付けています。

いただいたもの　及び　Ponteとやま(みやの森カフェ)お仕事一覧　2026年6-8月

[いただいたもの] 菓子・野菜・肉・パン・米・砂糖・いちじくなどの果物・ジュース・お菓子・机・おもちゃ・タオル・ティッシュ

６月　８日　砺波市フリースクール等情報交換会
６月１５日　南砺市・小矢部市フリースクール等情報交換会
６月１７日　令和８年度高岡地区高等学校ＰＴＡ指導者研修会講演会講師（水野）
６月２４日　上野千鶴子さん来訪
７月2、3日　14歳の挑戦
７月１５日　いみずっ子babyの会ベビーヨガセラピー講師（水野）
７月19日　おしるこカフェ
７月２９日　富山県特別支援学校知的障害教育研究協議会講師（水野）
８月３０日　GIOカフェ
９月　１日　多機能事業所（児童発達支援・放課後デイサービス・保育所等訪問）Com-ponte開所



みなさまのご厚意に
心から感謝いたします！

みやの森カフェ instagram　検索

Ponteとやま instagram　検索

砺波市委託『パパママ教室』開催中！

初めての出産を前に、「赤ちゃんとの生活はどう始まるのかな」
「夫婦で何を準備すればいいのだろう」と、楽しみと同時に不安を
感じる方も多いと思います。そんなプレママ・プレパパが肩の力を抜き、
出産や産後の暮らしを一緒に考えられる場をつくりたい。その思いで、
毎月「パパママ教室」を開いています。
教室を中心となって支えてくださっているのは、はぐはぐ助産院の
助産師、佐藤久子さんです。豊かな知識と経験をもとに、一人ひとりの
不安や疑問をやさしく受け止め、その方に届く言葉で丁寧に伝えて
くださいます。毎回、熱意をもって力を尽くしてくださることに、
心から感謝しています。
佐藤さんのワークショップに加え、ヨガ、鍼灸、薬膳、こころの話など、
専門講師による講座も大変好評です。先輩パパ・ママから出産や
赤ちゃんとの暮らしについて直接話を聞ける回も、この教室ならではの
大切な時間です。経産婦さんにもご参加いただけるようになり、参加者
同士で経験を分かち合える場面も増えました。パパの参加も多く、
ご夫婦で産後の生活を考える機会になっています。
私たちが願っているのは、子育てが「孤育て」にならないことです。
同じ時期に赤ちゃんを迎える方との横のつながりや、地域の専門家との
出会いが、「困ったときは誰かに頼っていい」「一人で頑張りすぎなくて
いい」と思えるきっかけになればうれしいです。
いつも温かく迎えてくださる「北部苑」と「しょうとう」の皆さまにも、
心より感謝申し上げます。初めて出産を迎える方も、
出産経験のある方も、パパだけママだけの参加も歓迎します。
どうぞ気軽にお越しください。詳しくは掲載のチラシをご覧ください。





国際交流？

6月24日、東大名誉教授の
上野千鶴子さんと韓国の
延世大学の人類学者の女性たちがカフェとフリースクールに見学に
きてくれました。通訳はアメリカの大学の若い人類学者の女性でした。
私たちは支援する場ではなく、ごちゃまぜの力が集まって皆で
生きていく場であるということ、川合君、まみちゃんが語ってくれて
届いたと思います。刺激的な時間でした。

そして、毎週水曜日、金京子さんの「韓国語講座」始まりました。
言葉だけでなく、料理や文化のお話も飛び交ってとても楽しいです。
飛び入り参加もOK！お気軽にどうぞ。無料です。
（何かメニューは注文お願いします）



韓国語講座では
bochi-bochiカフェの
おいしいパフェ

みやの森通信 バックナンバーはこちらから
みやの森通信 検索

ホームページはこちらから
Ponteとやま 検索

みやの森カフェ

ごちゃまぜ化がさらに進む









子ども、若者、女性、その年齢はさまざまでごちゃまぜ化してきたカフェが、とうとうZIO（イタリア語でおじさん）にも拡散されることになりました。

そのおおもとは、雲井重人さん（くもくもさん）。

くもくもさんは、ものがたり診療所を定年退職して、「クモイさん、Ponteに来てくださいよ～」と私がささやき続けた甲斐あって、4月から週3日Ponteスタッフになりました。そして、9月からはいよいよ専属スタートになります。

この週3日の助走期間に、くもくもさんがチャレンジしたことは、「みやの森オリジナルブレンドコーヒーを作って出張カフェをする」「IT講座を開く」「清掃部門で研修を受ける」「衛生管理責任者をとる」「相談専門員の資格を取る」「ギターで音楽活動をする」…その合間に料理の試作・ワゴンの制作・出張カフェ・・・すごいです。

そして、とうとう、8月30日、若林さん（わかさん）とZIOカフェスタートとなりました。わかさんも60代。大きな病気・手術をされて、これからの生き方を探しにいろんな居場所を巡ったそうです。ごちゃまぜの中で、いろんな人とも語り合い、みやの森カフェでもZIOの柱になりつつあります。

この日は、宝物のロードバイクを展示。自転車大好きな高校生が学校から直行して見に来てくれました。

ZIOにはまだちょっと早いユージ君もポテトガレット作って、参加しました。額に汗して頑張っていましたよ。

息子さんと来てくれたナオミさんのコメントがすてきです。

「楽しい時間をありがとうございました。てっきりご家族かと思っていたら相席の人だったり、お連れさんかと思ったら、表で会って一緒に入っただけの人だったり、ごちゃまぜでした」

9月28日には、ご近所のサイトウさんの「鳥講座」。サイトウさんが撮りためた美しい写真を見ながらワイワイとおしゃべりをしました。

御年84歳…農業にもパソコンにも車にもカメラにも精通しているサイトウさんは若者たちにも尊敬されています。そのお話は目からウロコ。

気が付かないところで、いろんな鳥が私たちと暮らしているんだ！

それを感じることができました。

世間の中では、どうしても孤立しがちな男性たち！一歩踏み出せば、新しい世界が待っている。

新たに参戦する方、お待ちしていますよ！

Ponteとやま instagram 検索

みやの森カフェ instagram 検索

高岡市戸出に新拠点『Com-ponte』誕生☆彡

Com-ponte
児童発達支援　放課後等デイサービス　保育所等訪問支援　コポンテ





「子どもたちのための新しい事業所をつくりたい」。
話が出たのは昨年4月です。ありがたいことに、
専門知識や経験を持つ心強い仲間も集まっていました。

ところが、肝心の場所が決まりません。探して、
迷って、ようやく出会ったのが戸出の元仕出し屋さん
でした。実はここ、Ponteクリーンチームがお世話に
なっている南福祉会理事長のご実家です。人との
つながりが、新しいご縁につながりました。
決まってからは、交渉、改装、備品の準備、
そして福祉事業の書類との格闘です。
めげそうになりながらも、8月末の暑い中、
スタッフやPonteクリーンチームの皆さんが片づけや
清掃に力を尽くしてくれました。多くの方に支えられ、
9月1日の開業に何とか滑り込んだ、
というのが正直なところです。
長年商売をしてこられた場所なので、ご近所の方が
「何ができたのかな」と覗き、声をかけてくださる
のもうれしいです。十分な宣伝もできない中、
すでに利用してくださる方がおられることにも
感謝しています。

「Com-ponte」は、児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援を行います。
就学前から学齢期まで切れ目なく、家庭や園、学校、地域とつながる支援を目指します。
児童発達支援管理責任者は、元通級指導教室の先生、高畠佳江さん。愛称「ヨッシー」。よく動き、
よく働き、よく笑います。多動は管理者の私（水野）以上かも（笑）。ほかにも、言語聴覚士の
遠藤さん、保育士の坂東さん、学習サポート講師でもお世話になった橋爪さん、PORTスタッフの
みさこさん、カフェでもおなじみのくもくもさん、そして協力スタッフの皆さん。それぞれの
経験や得意を持ち寄った、強力なメンバーです。

子どもの行動には、その子なりの理由や背景があります。私たちは、目に見える姿だけで
「できる・できない」を判断せず、本人が何に困り、どう感じているのかを丁寧に考えます。
環境や伝え方、周囲の関わり方を整えることで、安心して取り組み、持っている力を発揮できる
ことも少なくありません。ご家族や園、学校など、子どもに関わる皆さんと理解を重ねながら、
その子の強みや過ごしやすい方法を一緒に見つけていきます。また、保護者の方が悩みを一人で
抱えず、安心して子どもと向き合えるよう寄り添うことも、私たちの大切な役割です。
始まったばかりの今は安全を第一に、丁寧に関わっていきます。「少し気になる」という段階でも、
どうぞお声を聞かせてください。Com-ponteも地域の皆さんと一緒に育っていきたいと思います。

Ponteとやま instagram　検索

みやの森カフェ instagram　検索

「できる仕事」から「任される仕事」へ

Ponteクリーンチーム、この夏の挑戦！

Ponteとやまの就労事業では、この夏もメンバーたちがさまざまな現場で汗を流しました。



8月6日、ウイング・ウイング高岡で今年度第1回「とやまクリーン部会」研修会が開催され、Ponteとやまから「クリーンチーム5年間の実践報告」を行いました。3人から始まった清掃活動が現在21人まで広がった歩みや、働きづらさを抱えたメンバーが清掃の仕事を身につけていくための工夫、さらにクリーン部会参加事業所との連携について紹介しました。質疑も交わされ、Ponteが現場で積み重ねてきた経験を、他の福祉事業所へ伝える機会となりました。



一方、Ponte自身も新しい挑戦を続けています。高岡市戸出に新設する児童発達支援拠点では、改築前の3階建て古民家（元旅籠・仕出し屋）の片付けを担当。6月下旬から7月上旬に3回に分け、不用品や古物の撤去・回収・そして清掃・除菌を行いました。他事業所からの応援17名を含め延べ約50名が参加し、搬出した不用品はなんと約34㎥！ 大変な作業でしたが、みんなで力を合わせて無事完了し、新しい拠点づくりの第一歩を支えることができました。



夏場の草刈りも昨年から2拠点増え、現在は計5カ所。延べ約4,700㎡を、草刈りから集草・搬出まで延べ20名で担当しました。酷暑の中、休憩や水分補給など体調管理を徹底し、無事作業を終えることができました。
仕事が増える一方で、草刈でも「場所に応じて、もう一段丁寧な仕上がりを」という要望もいただいています。これは私たちにとって次の課題であると同時に、Ponteが“仕事を任されるチーム”へ成長するための新たなステップでもあります。9月以降には新規で約2,000㎡の物流拠点の草刈り整備、さらに来年4月以降には新たな清掃現場担当の可能性も出てきました。

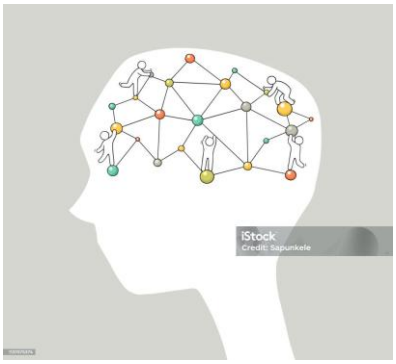


「できなかったこと」が少しずつ「できること」になり、それがやがて「任される仕事」になる。
メンバーとともに成長しながら、Ponteクリーンチームは次の一歩へ進んでいきます。

みやの森通信はPonteとやまの就労支援を継続的に取り上げてきました。
第11号の就労支援特集ほか、バックナンバーをぜひお読み下さい(検索やQRコードはこちら→)

みやの森通信　検索

Yujiの“脳”分析その３



「完璧を目指した片付けを手放したら心が軽くなった」

私の部屋は昔から物であふれていました。読みかけの本や書類、着なくなった服が増え、必要な物がすぐ見つからないこともあります。片付けようとしても、あれもこれも気になって手が止まり、終わるころには疲れ切っていました。でも、きれいな部屋を見ると頭の中も整理されたように感じるので、私は「片付けるなら完璧に」と思うようになっていました。完璧な片付けが日々できるわけはなく…物が増えてはたまに片付けることの繰り返しに嫌気がさしていました。

ある日、水野さんに相談した際、「完璧な片付けを目指さない方がいいのでは？」「片づけようと収納を増やすと見えなくなってしまい探すのに時間がかかる」「物を増やさず減らすことが大切」と聞きました。私は、見えない場所にしまうと存在を忘れ、同じような物をまた買ってしまっていることに気づきました。

そこで始めたのが「物の見える化」です。衣服はハンガーに掛け、タオルや下着はバスケットへ。本は押入れの一部を本棚にし、書類はレターケースに置き、読み終えたら処分する仕組みにしました。どこに何があるか分かるようになり、片付けの手間も減りました。そして、きれいにできない自分を責めることが少なくなりました。

以前は部屋が散らかると、「あの書類はどこだろう」「この本は買っただろうか」と頭の中まで落ち着かなくなっていました。今は、完璧に片付けるより、自分が暮らしやすいことのほうが大切だと思えています。部屋が乱れたときは、「心に余裕がなくなってきたサイン」と受け止め、できるところから戻そうと思えるようにもなりました。

私のやり方が誰にとっても正解とは限りません。自分に合ったやり方を見つけることで、自分を責めずに片付けとうまく付き合うことができているなと感じています。

編集長 家森謙の 目 能動的行動は必要。但し‥

▼5面のカフェトピック結びの言葉「世間の中では、どうしても孤立しがちな男性たち！一歩踏み出せば、新しい世界が待っている。新たに参戦する方、お待ちしていますよ！」甘やかしませんというPonteとやまの意思を再認識した。「あなたは助けられる側ではない。助ける側の人間。Ponteとやまのフリーペーパーを作ってください」7年前の秋頂いたみやの森通信作成のオファーの言葉を思い出す▼オファー自体は受け身だが、Ponteとやまのイベントに参加し、質問したのは能動的行動。それがきっかけで得られたオファー。この7年、通信の編集を通じ多くの事を学んだし、新たな人脈も一つ得られた。自ら動かなければ得られなかったのは明白。能動的行動は人生で必要と感じる▼一方、通信では運よくマッチングが取れたが、そうとも限らない。最近参加した某イベントでは或る自己実現事項で全くマッチングが取れなかった。合格ラインに大きな相違が有り、高得点狙う場合、泣きながら研鑽する必要があるらしい。が、私はその合格ラインは求めてなく、「楽しみたい。泣いてまでしたくは無い」という思いが強かった。行動の結果、失敗も多くある。手数は必要という話だ▼但し、時には声掛けやお節介が欲しい事も最後に付け加えたい。人は年月経てば内的外的状況も変わる。メンタルが削られている時は能動的に動く元気も声を出す元気も無くなる。そして、男は孤立しがちな生き物だから

Ponteとやま instagram 検索　みやの森カフェ instagram 検索